

令和2年京都市はたちを祝う記念式典 二十歳の誓い

今日の式典には、参列するだけでなく主体的にかかわって、これまで内心に止めていた感謝の気持ちを発表したいと、今ここに立っています。

小学生のころの自分は、喧嘩っ早く不適切な行動を繰り返していました。感情を上手くコントロールできず直ぐに手が出てしまっていました。校外学習前の班ごとの話し合いの際も、自分の意見が上手く言えず、分かってもらえないもどかしさから取っ組み合いのけんかにまで発展してしまったこともありました。それなのに、柔軟剤や制汗剤の臭いが原因で体調を崩し、配慮をお願いすることとなり、みんなにいろいろと迷惑をかけてきました。

中学生になっても性格は変わることはなく、喧嘩をよくしていましたが、ある日喧嘩をしていた相手の子の自分を見る目が今までにないもので、怒りの言葉が胸に突き刺さりました。「こんな自分ではダメだ！何とかしなければ！」この時自分自身に対する危機感を感じたのです。本気で怒ってくれた友人のお蔭で、「意識的に感情や衝動を抑えていこう」と自分に誓い、努力することを始めました。さぼりがちだった部活にも真面目に行くようになりました。自分を少しずつ変えていくことで、周りとの関係も変わっていくことを知りました。

今大学では法律を勉強しています。無料法律相談所という団体にも入り、様々な問題に悩んでいる市民からの相談に対して、日々仲間と共に学び知恵を出し合っています。

また母子家庭で育っていたということもあり、福祉行政にも関心を持ち、京都市社会福祉審議会の公募委員としても活動しています。この活動を通して支えあいの重要性を知り、自分のことだけではなく、他の人を支えていけるような大人になりたいと思いました。母もいろいろな人に助けってもらったように、自分もひとり親家庭の人や困っている人をしっかり支えていける弁護士になることも誓いたいと思います。

最後に、同級生の温かい心を持った行動や言葉がなければ、今ここでこうして二十歳の誓いはしていなかったと思います。そして久しくあっていない父親にも心から感謝の気持ちを伝えたいです。「本当にありがとう！」

令和2年1月13日 新成人代表 小西浩太